

【大学間協定留学】留学報告書

記入日	2024 年 5 月 5 日
明治大学の所属学部・研究科 ※学部・学科・研究科・専攻等	経営学部
留学(渡航)した時の学年	3 年生
帰国年月日	2024 年 5 月 5 日
明治大学卒業予定年月	2025 年 3 月
留学先大学について	
留学先国	アメリカ合衆国
留学先大学	ヤングスタウン州立大学(日本語名) Youngstown State University(現地言語名)
現地使用言語/ 授業使用言語	英語/ 英語
留学期間	2023 年 8 月～2024 年 5 月
留学先大学で在籍した学年	3 年生
留学先の所属学部等	<input type="checkbox"/> 特定の学部・研究科等に所属している(以下に学部等名を記入) ※学部等名 日本語名: 現地言語での名称: <input checked="" type="checkbox"/> 特定の学部等に所属せず様々な学部等の授業を履修している <input type="checkbox"/> その他:
形態	<input type="checkbox"/> 国立 <input checked="" type="checkbox"/> 公立 <input type="checkbox"/> 私立 <input type="checkbox"/> その他:
学年暦 ※記入例: 1 学期: 4 月上旬～7 月下旬 2 学期: 9 月中旬～2 月上旬	1 学期: 8 月上旬～12 月中旬 2 学期: 1 月中旬～ 5 月上旬 3 学期: ～ 4 学期: ～
学生数	9300 人
創立年	1908 年

留学費用			
留学費用項目	現地通貨 (USD)	日本円	備考
授業料	0	0 円	
宿舍費	5,640	700,000 円	
食費	1,000	150,000 円	
図書費	0	0 円	
学用品費	0	0 円	
携帯・インターネット費	0	0 円	海外でのインターネットの契約等は特にしなかった
現地交通費	0	0 円	寮に住んでいた(<input type="checkbox"/> 大学まで徒歩・自転車)
教養娯楽費	0	0 円	遊びに行くことはあまりなかった
被服費	0	0 円	服を買うことはなかった
医療費	0	0 円	病院にかかることはなかった
保険費	1,350	200,000 円	形態：明治大学/ヤングスタウン州立大学
渡航旅費	2,000	300,000 円	
ビザ申請費		円	
雑費	600	10,000 円	寝具等
その他		円	
その他		円	
合計	10590	1,350,000 円	

渡航関連	
渡航経路	
往路 出発地:成田空港 目的地:ピッツバーグ国際空港 経由地:ジョージア	
復路 出発地:ピッツバーグ国際空港 目的地:成田空港 経由地:トロント空港	
渡航費用	
① 往復チケットを購入した場合 航空会社: 料金: ② 片道ずつチケットを購入した場合 往路 航空会社:Zipair 料金:1,300 復路 航空会社:Air canada 料金:700 ∴ 合計:\$2,000	
航空券購入方法	
<input type="checkbox"/> 旅行代理店(店名:) <input checked="" type="checkbox"/> インターネット(サイト名:Expedia) <input type="checkbox"/> その他()	
滞在形態関連	
1) 種類(留学中の滞在先)(例:アパート、大学の宿舎等)	
<input checked="" type="checkbox"/> 学生寮(寮の名前:Kilcawley hosue) <input type="checkbox"/> アパート <input type="checkbox"/> ホームステイ	
2) 部屋の形態	
<input type="checkbox"/> 個室 <input checked="" type="checkbox"/> 相部屋(同居人数 2)	
3) 共有部分	
<input checked="" type="checkbox"/> バス <input checked="" type="checkbox"/> トイレ <input checked="" type="checkbox"/> キッチン(<input checked="" type="checkbox"/> 自炊可 <input type="checkbox"/> 自炊不可)	
4) 住居を探した方法:	
大学からの紹介	
5) 感想:(滞在先の感想とこれから留学する人のためのアドバイス)	
Kilcawley House には多くのインターナショナル学生が在籍しています。大学に隣接しており、授業に行く際に利便性は高いです。	

現地情報

1) 留学期間中、病気やケガをしましたか。した場合、どこで治療を受けましたか。

(例: 現地の病院、学内の診療所)

☒ なし

☐ あり (治療を受けた場所:)

2) 留学期間中、学内外で問題がありましたか。あった場合、誰に相談しましたか。

(例: 留学先大学の相談窓口、現地の友人等)

☒ なし

☐ あり (問題の内容や相談した人等:)

3) 現地の危険地域情報をどのように収集し、どのような防犯対策をしましたか。また、実際に盗難等を含む犯罪に巻き込まれたことはありますか? その際どのように対処しましたか?

キャンパス外はかなり治安が悪かったため、常にキャンパスの中にいるようにしました。実際に被害にあったことはありません。

4) 携帯電話や、インターネットについて、現地での利用・接続はいかがでしたか。

(例: 寮のインターネット接続が不安定で 1 週間に 1 度は全く繋がらない時がある。街にあるほとんどのカフェでは WIFI 接続が可能であったので、寮で使用できない時はカフェに行った。)

どんな場所でも安定的に Wifi の接続があります。

5) 現地での資金調達はどのように行いましたか?

(例: 現地に銀行口座を開設して日本の親から送金してもらった。銀行口座は現地で外国人登録をしないと開設できない。また、クレジットカードも併用していた。)

銀行口座等は解説せず、日本から持ってきたクレジットカードのみを使用していた。

6) 現地では調達できない日本から持っていくべき物があれば教えてください。

日本食

7) 【授業料負担型の方】授業料の支払方法、支払時期等について教えてください。

(例: 渡航前に自分で指定したクレジットカードで支払った、現地で開設した銀行のチェックで支払った。)

学習・研究活動についてのレポート(履修した科目ごとに記入)	
1) 留学先で取得した単位数合計	本学で認定された単位数合計 ※該当項目にチェックのうえ、記入して下さい。
3 単位	<input type="checkbox"/> 単位 <input type="checkbox"/> 単位認定の申請はしません(理由:)
2) 履修登録の時期・方法及び履修制限	
<input checked="" type="checkbox"/> 出発前 <input type="checkbox"/> 出発後 <input type="checkbox"/> 派遣先大学の事務室 <input checked="" type="checkbox"/> オンライン <input type="checkbox"/> メール <input type="checkbox"/> その他() <input checked="" type="checkbox"/> 履修の制限があった:	
3) 以下は留学先で履修した科目についてのレポートです。今後留学をする人たちへのアドバイスも含めてお書き下さい。記入スペースが足りない場合は、A4 用紙で別途作成し、添付してください。	
履修した授業科目名(留学先大学言語)	履修した授業科目名(日本語)
Writing for Non-native English speakers	英語非ネイティブ向けライティング
科目設置学部・研究科	経営学部
履修期間	秋学期
単位数	3
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)
授業時間数	1 週間に 50 分が 3 回
担当教授	
授業内容	週に 3 回の授業の中で、英語のライティングスキルに関する多岐にわたるテクニカルスキルやエッセイの構成の仕方といった技法を学習する。また、金曜日の授業はオンラインのみとなっており、それまでの 2 回の授業で学習した内容を踏まえて、数枚の課題プリントが出されるため、それを当日中に提出する。
試験・課題等	試験は 3 回実施され、全てオンライン上で作成したエッセイを提出するというものだった。その内容としては、以前に自分が体験して、むずからの捉え方を変えるきっかけとなった出来事、自作の物語、比較論文の 3 つであった。文字数は 800-1000 文字から始まり、回数を重ねるごとに 200 語程度増加していった。定期的な課題は週に 2 回程度のペースで提出され、量としてはプリント数枚程度であった。
感想を自由記入	この授業は、英語を第一言語としない生徒向けに用意されているため、英語でのエッセイの書き方、まとめ方等を基礎から学ぶことが出来る。また、そのためエッセイ等に対する成績評価基準は比較的低かった印象を受ける。先生はイタリアにルーツを持つアメリカ人の方で、授業に参加すると常に自分のルーツを交えた興味深い話をしてくださった。

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Fonudation Of Business		ビジネス基礎
科目設置学部・研究科	経営学部	
履修期間	1 学期間	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Michelle Green	
授業内容	この授業では基礎的なビジネスの専門用語や国際的なビジネスの違いを講義形式で学習する。アメリカで展開されているビジネスを中心にして、日本や中国、ヨーロッパとうでのビジネスにおけるビジネスとの差異や共通点を学習する。	
試験・課題等	毎週オンライン上で 20 問程度の事前に授業で学習したテストがある。また、大学に在籍するキャリアに関する担当者これからについて話すという課題や、大学で開催されるスピーカーイベントに参加して、そこで感じたことや気づいたことをまとめて提出する課題があった。加えて、学期末に自分のビジネスを行うネット上をサイトについてグループに分かれてグループプレゼンテーションを行った。中間試験や期末試験は無い。	
感想を自由記入	この科目は、大学に入学したばかりの一年生向けに提供されている授業であり、多くの経営学部にも所属する一年生が授業に出席していた。先生はユーモアがある方で、授業内容を面白おかしく教えてくれた。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Managerial Accounting		管理会計
科目設置学部・研究科	経営学部	
履修期間	一学期間	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Peter Woodlock	
授業内容	ビジネスのマネジメントに関連する管理会計の能力を学ぶ。授業では常にエクセルを使用し、教授がビジネスの様々な状況における行動判断において、会計学的な側面から、どのような行動を洗濯することが最適化を見出す方法を学習する。この授業では、あるビジネスにおいて、経営の判断を迫られたときに必要とされる、予算の計算、比較方法、及び投資に関する決断の過程を学ぶことが出来る。その他には、ある会社が行っている一つのビジネスに関して、それを継続していくのとそのビジネスを停止するのは、どちらが利益を生み出すのかといった問いに対する、体系的な計算の仕方や考え方を学ぶ。	
試験・課題等	定期試験は 1 学期間におよそ 5 週間ごとに一度のペースで行われた。試験は授業で行ったような、会計の分析及び、経営判断をエクセルを使用して、計算し最適解を導き出すような問が数問出題された。毎週、配布されたプリントの中から、課題が課せられた、それを基に、授業を進めていた時もあった。実際に課された課題の提出を求められたのは、数回のみであった。	
感想を自由記入	この授業では、実際にビジネスの現場で日々起きている経営判断に対する深い見識を得ることが出来、非常に面白い授業だったと感じます。教授はやや速いスピードで授業を進めるため、エクセルにタイプするのが少し大変でした。それでも、大事なコンセプトや定期試験において重要なパートナ何度も繰り返し説明してくださり、その説明もわかりやすかった。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Financial Accounting		財務会計
科目設置学部・研究科	経営学部	
履修期間	1 学期間	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Dave Law	
授業内容	企業の財務諸表について、水平分析、垂直分析、トレンド分析、比率分析を行う。また、財務諸表の分析手法を用いて、企業の流動性、支払能力、資産管理、収益性を評価する、その他にも、企業の流動性、支払能力、資産管理、収益性、自己資本利益率を業界平均と比較して評価し、投資/非投資の意思決定をサポートする方法を学ぶ。基礎的な仕訳から高度な税金の計算方法まで多岐にわたる財務諸表に関わるセオリーを学習する。	
試験・課題等	試験は 1 学期間に 3 回行われ、最初のテストと中間テストはインパーソンの形式で実施され、期末テストはオンラインで実施された。また、日々の課題では、教授から送られてくる動画を視聴して、問題に答えるものと、テキストの問題を解いてくるという課題の2種類があった。	
感想を自由記入	この授業では、現在の財務諸表の根幹となっている、様々なセオリーを体系的に学習することが出来、非常に有益な授業であったと思います。授業では、様々は簿記の記帳方法やセオリーを学ぶことが出来て、授業でも多くの発言を期待される雰囲気があった。分からないことがあれば、分かるまで説明してくださったことや、教授が実際に会計士をして勤務していた時の貴重な話を織り交ぜた講義はとても興味深かったと感じる。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Writing1		ライティング 1
科目設置学部・研究科		
履修期間	1 学期間	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式 (チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Cladius Magembe Nyaanga	
授業内容	このライティングの授業においては、主にライティングの修辞技法き焦点を置いて学習する。Pathos,Lagos といった修辞法において欠かせないコンセプトを日々の課題や講義を通して学習し、それを定期的に課されるエッセイの課題においてアウトプットをしながら身に付けていく。また、エッセイを書くために必要なフォーマットや構成の仕方といった、基本的な内容も学習する。	
試験・課題等	課題は毎回の授業において出題され、課題文を読んでその回の授業において学習した内容を踏まえて、批判文を書くという課題が多かった。また、頻繁にグループを組んで、学習したことをまとめて、クラス内で発表することを求められることもあった。試験は、エッセイを提出するという形を取っており、訳 1000 単語から 1800 単語に至る計3つの課題を提出した。	
感想を自由記入	この授業では、今までのライティングの授業では聞いたことの無いコンセプトを多く耳にした。今までの、学術的な形式でのライティングスタイルではなく、修辞法に重きを置いて、その観点からアカデミックライティングを観ることで、新たな視点からライティングを見つめなおすことが出来たと感じる。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Legal and social responsibilities of business		ビジネスの法と社会的責任
科目設置学部・研究科	経営学部	
履修期間	1 学期間	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 75 分が 3 回	
担当教授	Kathryn Ann Regnery	
授業内容	この授業では、ビジネスに関連する様々な法律や条例、規制等について学習する。ビジネスの現場で実際に発生した、法に関連する問題を例にとり、そのような状況において、知っておくべき法の知識などを学習する。ビジネスの現場で上手く立ち回るために必要とされる概念を多く学ぶ他、弁護士として働いておられる教授が実体験をもとに実践的なビジネスに関する法の扱い方を学ぶことが出来る。	
試験・課題等	この授業では、毎週の課題などは特に課されなかった。しかしながら、月に一回程度のオンラインでのテストや、法律的側面からのビジネスでの課題の解決方法に関するエッセイの提出を求められた。加えて、実際に起きた裁判のレポートを読み、その中の内容を答えるクイズ形式の課題も課された。	
感想を自由記入	これからのキャリアを考えた際、会計のみならずビジネスを取り巻く経営環境や法律の観点からの見識を深めたいと考えていたため、この授業を履修しました。授業に出席してみると、実際に法律に関する多岐にわたる領域のビジネス法に関して学ぶことが出来、有益な授業になったと思います。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Cost Accounting		コスト会計
科目設置学部・研究科	経営学部	
履修期間	1 学期間	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式 (チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Michael C. Villano	
授業内容	この授業では、主にビジネスの場面で使用される原価計算を計算します。原価計算では、技術的なデータを、組織の指導者が社内の顧客計画や報告書作成に使用できるような用語に変換していく方法を学習し、組織内部の顧客の計画や管理に使用できる用語に変換する方法を学ぶ。詳しい学習内容としては、エクセル等を使い、労務費、間接費などをどのように配賦するのかを学習し正しい原価計算の方法を学びます。また、様々な種類のコンセプトを教授のプレゼンテーションを通して学びます。	
試験・課題等	課題はシラバスに記載されている購入したテキストの番号に当たる問題を毎週解いてくることでした。また、提出が求められたのは、3 回のみでした。解いてきた問題は、授業の終盤に教授が解説してくれ、時間が足りなかった場合は、後に計算方法が載ったPDFが教授から送信されました。試験に関しては、学期の初めと中間、期末に一度ずつ実施され、選択問題と授業で学んだ原価計算に関する問題が数問出されました。	
感想を自由記入	もともと、原価計算の方法を学ぶことに興味があったので、実際にアメリカの大学でこの授業を履修しました。毎週、パワーポイントを使用した講義があり、学ぶ量がかかなり多く、授業についていだけで精一杯なときもありましたが、授業ではとても重要なコンセプトを数多く学ぶことで、この授業を取る事が出来て満足しています。	

履修した授業科目名(留学先大学言語)		履修した授業科目名(日本語)
Accounting information systems		会計情報システム論
科目設置学部・研究科	経営学部	
履修期間	1 学期間	
単位数	3	
本学での単位認定状況	単位認定(本学で認定された単位数を書いて下さい)	
授業形態	講義形式(チュートリアル、講義形式等)	
授業時間数	1 週間に 75 分が 2 回	
担当教授	Yiyang Ziang	
授業内容	この授業においては、実際に会社でのビジネスの流れをパソコン上で再現し、実際に会計がどのように使用されるかや、記帳した仕訳をオンラインでどのようにまとめ、記録していくかなどを学ぶ。授業の中では、架空の会社で起こった仕訳から、仕訳帳や総勘定元帳を作成し、実際に現場で行われている仕事を体験することが出来る、加えて、関連する内部監査も学習することが出来る、例えば、しょうひんを購入した際にどのような種類が必要で、会社に重大な影響を与える感謝内部での罪を防ぐなどの観点から、どの課がそれを担当する必要があるのかなどを、フローチャート等を通して学習する。	
試験・課題等	定期的な課題としては、一つのチャプターを終えるたびに出される、10 問から 20 問程度で構成されている小テストや、架空の会社で作成した様々な財務諸表の提出が求められた。また、学期に一度、ある会社で実際に起きた内部監査に関連する事件に対するレポートも提出が求められた。試験に関しては、オンラインで 2 回実施され、授業で学習した内容に関する、選択と記述問題が出された。	
感想を自由記入	この授業は今まで履修してきた会計に関する授業とは異なり、セオリーに重きを置かず、実際にこれまで学習してきたことを使用した実践型の授業であり、とても面白かったと思います。今まで会計の会社で働いてきた経験はあまりないため、授業についていくことがとても大変でしたが、理論と実際にしようされる会計の差異や共通項、実際に働き出した時に役に立つであろう知識を多く身に着けることが出来、非常に有出来な授業だったと感じています。	

卒業後の進路について

1) 進路 ※3 年生以下の方は今後の予定を記載してください。(下記 2 以降は記入不要)

☐就職 ☐進学 ☒未定 ☐その他:

1) 進路決定の際に活用したウェブサイト、書籍、機関等

3) 就職を選択した方は、差し支えなければ内定先を教えてください。また、その企業を選んだ理由も教えてください。内定を得た企業すべての名前、あるいは入社すると決定した企業の名前のみでも構いません。就職活動をこれから始める場合は、差し支えなければ現時点で希望する業界、職種等を教えてください。

4) 就職活動中・終了に関わらず、就職活動について感想・アドバイスをお願いします。
(例: 留学中の就職活動へ向けた準備、帰国後に就職活動を始めるにあたり注意すること等。)
就職活動を不安に思い、留学を断念する方もいます。ご自身の経験を踏まえてアドバイスをお願いします。就職活動をこれから始める場合は、留学経験を通して就職活動に対する意識や希望する就職先の変化等を教えてください。

5) 進学を選択した方は、差し支えなければ進学先を教えてください。

6) 進学を志す留学希望者に向けたアドバイス(準備、試験対策等)をお願いします。

7) その他を選択した方は、その進路を選択した理由と、留学希望者に向けたアドバイスをお願いします。

留学に関するタイムチャート

留学するまでの準備、試験勉強、留学中、留学後、特に留学に関連して発生した事項を記入してください。

(例: 語学試験の勉強、選考、出願、ビザ申請・取得、航空券購入、予防接種、滞在先の確保、留学中の中間試験、期末試験、その他イベント等)

留学開始年の 前年	1 月 ~ 3 月	英語学習
	4 月 ~ 7 月	英語学習
	8 月 ~ 9 月	IELTS 受験
	10 月 ~ 12 月	留学出願
留学開始年	1 月 ~ 3 月	書類手続き
	4 月 ~ 7 月	予防接種
	8 月 ~ 9 月	渡航
	10 月 ~ 12 月	春学期(中間、期末試験)
留学/帰国年	1 月 ~ 3 月	秋学期(中間試験)
	4 月 ~ 7 月	秋学期(期末試験)&帰国
	8 月 ~ 9 月	
	10 月 ~ 12 月	

留学体験記

※ この留学先を選んだ理由、留学生生活全般について、また、これから留学を志す後輩学生へのアドバイス等、自由に記入してください。

私がヤングスタウン州立大学を選択したわけとしては、主に日本人の少なさと勉強に集中できる環境です。この大学に留学する日本人はカリフォルニアやニューヨークなどの大都市に位置する大学と比較すると圧倒的に数が少ないです。そのため、常に英語を使う環境に身を置くことが出来ると考え、この大学に留学することを決めました。日本人が多い大学に行くことや、友人作りを楽しんでくれたり、気分的に落ち着けるという観点ではとても有効的で、いい選択だと思いますが、私は個人的に8か月間一度も日本語を使わないような生活をしてみたいと考えていたため、この大学を選択しました。また、この大学はアメリカの田舎に位置していた、娯楽があまりなく車が無ければ等でもしにくい場所がありました。そのため、いい意味では勉強に集中できる環境を提供してくれますが、一方であまりにも娯楽が少なくいろいろな人と関わって交流したいと考える人にとっては、さほど良い環境とは言えないかもしれません。

これから留学をする方へのアドバイスとしては、徹底的な下調べを行う事だと思います。例えば、アメリカに留学したい方であれば、アメリカには訳 50 の州があり、それぞれが違う特徴を持っています。加えて、学校ごとにも違いがあり、スポーツに力を入れている学校もあれば、生徒数が多く活気にあふれている学校など多岐にわたる違いがあります。留学では、とても長い間慣れない場所で生活することになると思うので、後悔しない留学生活を送れるように、自分にとって最適な学校を見つけるために、インターネットで徹底的に下調べを行い、最適な選択が出来る状態にしておくことがとても大切だと思います。